

# 声

業界の

● 山梨県警備業協同組合  
理事長 久保島敏氏



## 業界の現況は？

警備業は大きく分けて「一号警備」から「四号警備」までの4つの分類になります。「一号警備」は、対象施設を盗難火災、不法侵入等から守るための警備、「二号警備」は、工事現場、駐車場、イベント会場等の交通誘導・雑踏警備、「三号警備」は現金輸送の警備、「四号警備」は周辺警護(ボディガード)となります。当組合は、「一号警備」及び「二号警備(交通誘導・雑踏警備)」業務を中心としている18社の警備業者で構成されており、道路工事や建設工事現場での交通誘導の他、信玄公まつりや花火大会等のイベントでの警備を行っています。

組合員の業務内容は、一号警備の割合が高く、特に工事現場等での交通誘導では、大部分が公共工事に関連するものとなっています。そのため、近年の景気低迷等を背景とした公共工事削減の影響を強く受けており、また、県外資本の参入等による価格競争の激化が組合員の経営を更に圧迫する状況となっています。

## 今後の展開は？

現在、県内における大型イベント等は、県外資本の大手警備会社が参入してきている状況です。私たちとしては、県内のイベントは県内をよく知る警備会社が警備してこそ、より安全な警備業務を行うことができると考えています。そのため、今後も組合員18社が協力して、このような大型イベントを受注できるように体制を整えていきたいと思っています。

また警備員の質についても、更なる向上を目指していきたいと思っています。そのためには、各種警備資格の取得の推進、講習会、勉強会等の教育訓練活動にも力を入れていきたいと思っています。そして、市民の方々の「安全・安心」を守る質の高い警備業務に務めていきたいと考えています。



講習会の風景